

G I G Aスクール構想の実現に向けての取組

令和3年9月21日

津幡町立中条小学校

駒口 暢

1. 校内研修について

(1) ICTサポートを活用した月1回の「G I G A全体研修」

ICTサポートを活用し、右表の校内全体研修計画に基づき、月1回実施している。教職員全体の端末活用スキル向上に役立っている。



月	全体研修内容
4月	・GIGAスクール構想について ・クロームブックについて
5月	・クラスルームの作成 ・共有ドライブの使い方
6月	・ミライシードの使い方
7月	・フォームで課題やアンケートの作成
8月	・大学教員による講話
9月	・オンライン授業に向けて
10月	・Googleドキュメントの使い方
11月	・Googleスプレッドシートの使い方
12月	・Googleスライドの使い方
1月	
2月	
3月	・1年間の振り返りと次年度に向けて

(2) 若プロでの実践交流会

今年度の若手教員研修会において、端末を活用した授業実践交流会を行っている。下表の計画に基づき、各若手教員が端末を使った実践を発表し、共有を図っている。また、中堅・ベテラン教諭や講師に向けても広く参加を呼びかけ、授業担当者全体の指導力向上も狙っている。



担当月	担当者	担当授業
4月		
5月	若手研コーディネーター	国語
6月	中堅教諭	算数
7月	10年目教諭	道徳
8月	9年目教諭	理科
9月	8年目教諭	社会
10月	6年目教諭	生活
11月	8年目教諭	音楽
12月	4年目教諭	体育
1月	3年目教諭	国語
2月	8年目教諭	社会
3月		

2. 共通実践について

(1) 目標の具体化・焦点化

「令和3年度 G I G A校内研修 年間計画」に示す目標を以下3点に定め、4月末に全教職員で共有した。

- ①担任は2日、級外は3日に1回以上の頻度で、1人1台端末を授業の中で活用する。
- ②児童が、1人1台端末を、使いたい時にすぐに使える環境を整える。
- ③児童の意見を集約したり全体に広げたり等の目的に応じて、1人1台端末の機能を効果的に使うことができる。

7月の教職員評価において、教職員の肯定的な回答（A・B・C・D 4段階評価のA+Bの割合）は、77%であった。12月には100%を目指し、現在も取り組んでいる。

(2) すぐ使える環境の整備

6月までに児童も教師も、使いたい時にすぐに端末を使える環境を整えた。児童には、登校後すぐに端末をケースから出し、ログインをして机の中に片付けることを習慣化させた。また、落下防止の対策として、以下3点を全児童・職員で共通理解した。

- ①掃除のときにいすは引き出し側に上げる。
- ②机を持たずに引いて移動させる。
- ③机の中では、道具箱の中ではなく、鉄の部分に触れるよう、いちばん下に置く。

また、授業担当者がどこの教室でも端末を使った指導ができるよう、全学年の普通教室に大型モニターを固定化した。



(3) 毎週火曜・朝学習の習熟タイム

毎週火曜日、朝学習15分の時間を活用して、全学級の児童が端末を使用して学習している。各教科の知識及び技能を習熟させる内容のソフトを活用することで、端末を操作する力を高めるだけでなく、各教科の力を高めることにも役立っている。



3. 授業実践について（若プロでの実践交流会より）

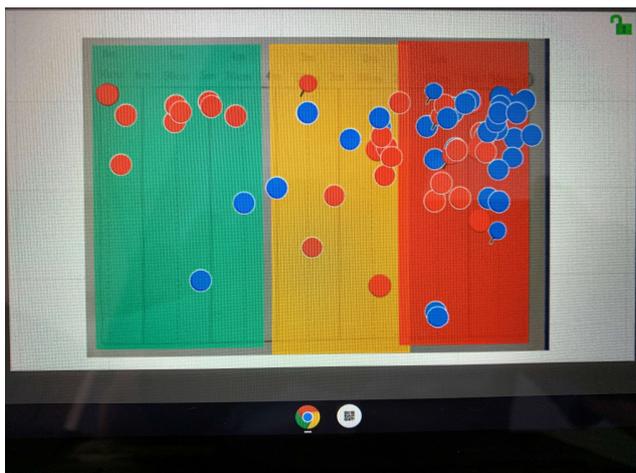
（1）2年 生活科「大きくそだて わたしの野さい」

ミニトマトの苗の観察の時に、苗の写真を端末で撮影し、気づいたことを書き込む活動を定期的に行い、自分のフォルダに貯めていった。後から時系列に見直すことで、苗の成長の仕方を視覚的に確認することができた。



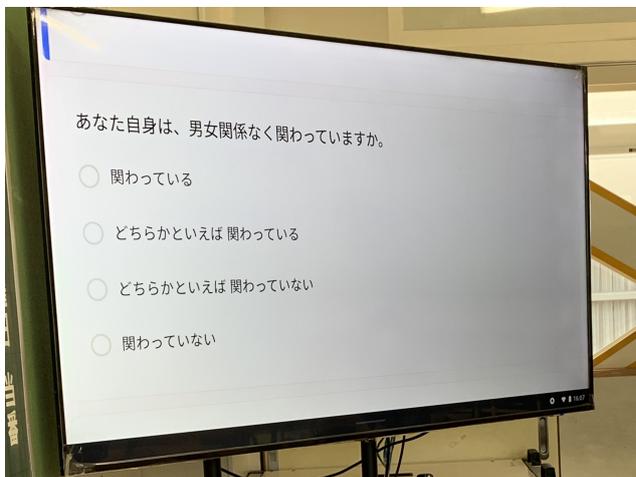
（2）3年 理科「風やゴムで動かそう」

風やゴムのはたらきを調べる実験で、車が進んだ距離を視覚化するために「ムーヴノート」のスタンプ機能を使用した。違った数値の各児童の記録でも、集計することで一定のまとまりとして捉えることができ、風やゴムのはたらきについて、考察することができた。



（3）5年 道徳科「古いバケツ」

「男女仲良く」という価値項目に迫れるよう、授業の導入で「フォーム」を使ったアンケートを実施した。回答後すぐに集計結果が共有でき、自分達の学級の良い所や改善点が視覚的に捉えられ、1時間学ぶ意欲と見通しを児童が持つことができた。



4. 成果と課題について

以上の共通実践により、児童も教師も、使いたい時にすぐ端末が使える環境が整い、現在全学級で概ね2日に1回は端末を授業で活用している状況である。使う頻度を担保することが、児童の端末活用力向上につながっていると考え。また、多くの教師が、まずは使ってみようという意識で、学習内容の習熟や児童の考えの共有等、できることから取り組んでいることも成果である。

一方で、授業の展開場面における「考えを深めるための活用」には未だ至っていないと考える。今後の授業でより効果的な活用ができるように、教職員自身が学び、授業実践を積み重ねて互いに共有していく必要がある。また、活用頻度が高まると、児童が使用する時のルール・マナーがより一層大切になってくる。情報モラル教育を通し、目的に合わせた正しい使い方を児童に身に付けさせていくことにも重点を置いて指導していかなければいけない。